



イチョウ：(大阪府大阪市)

トピックス：「令和5年度 森林・林業交流研究発表会」の開催

ニュース：企画調整課、奈良森林管理事務所、三重森林管理署、
福井森林管理署、山口森林管理事務所

花草木：イロハモミジ

我が署のスタッフ：三重森林管理署

森林事務所等紹介：宮津森林事務所(京都大阪森林管理事務所)

国有林最前線：鳥取森林管理署

「令和5年度森林・林業交流研究発表会」を開催しました。

【技術普及課】

11月21日(火)～22日(水)の両日、近畿中国森林管理局大会議室において「令和5年度森林・林業交流研究発表会」を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、30名を超える一般の方々に傍聴頂いたほか、すべての課題が会場での発表となりました。

今年の発表課題は、森林管理署等の職員のほか、事業者との共同発表、県、教育機関にも発表いただき、内容も低コスト造林の取組、獣害対策、ICTを活用した治山事業、過去の試験研究を掘り起こしたものなど、全25課題（特別発表4課題を含む）と地域の課題に取り組んだ研究発表となりました。



会場の様子



質問に答える石川署 神山さん

8名の審査員による厳正な審査の結果、局長賞に、「積雪地における森林防護柵の効果的な設置方法についての考察」について発表した鳥取森林管理署の津山さん、「表層崩壊発生抑止を目的とした簡易な木製杭工法の開発」について発表した京都大阪森林管理事務所の川勝さん、越井木材工業株式会社の清水さん、株式会社コシイプレザービングの壁野さん、「低コスト省力造林の取組について～オルソ画像を活用した下刈省略区域の判定～」について発表した三重森林管理署の那須さん、篠原さんの3点が受賞しました。そのほか9点が各賞を受賞されました。各受賞者等は表彰一覧表のとおりです。

今回発表いただいた内容については、森林・林業交流研究発表集録としてとりまとめ、局ホームページで掲載しています。

URL：<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



(特別発表をいただいた研究機関)

- 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所 伊藤 江利子
- 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 関西育種場 高島 有哉
- 三重県林業研究所 島田 博匡
- 広島県立総合技術研究所 林業技術センター 涌嶋 智



審査委員長 森林総合研究所関西支所長 鷹尾氏講評



局長賞表彰

【令和5年度 森林・林業交流研究発表会表彰一覧】

○近畿中国森林管理局長賞（3点）

- ・受賞者：鳥取森林管理署 津山 稔
発表課題：積雪地における森林防護柵の効果的な設置方法についての考察
- ・受賞者：京都大阪森林管理事務所 川勝 祥永
越井木材工業株式会社 清水 賢
株式会社コシイプレザービング 壁野 宏司
発表課題：表層崩壊発生抑止を目的とした簡易な木製杭工法の開発
- ・受賞者：三重森林管理署 那須 満まる 篠原 庄次
発表課題：低コスト省力造林の取組について
～オルソ画像を活用した下刈省略区域の判定～



三重森林管理署
那須満まる 篠原庄次

○国立開発研究法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所長賞（1点）

- ・受賞者：兵庫森林管理署 瀧沢 学
発表課題：急斜面における3つのICT技術の導入について

○国立開発研究法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場長賞（1点）

- ・受賞者：森林技術・支援センター 佐伯 浩一
発表課題：コンテナ苗植栽後10年程度経過した林分の現況について
～植栽時期が成長に及ぼす影響～



森林技術・支援センター
佐伯 浩一

○一般社団法人日本森林技術協会 理事長賞（1点）

- ・受賞者：兵庫県立森林大学校 阪上 碧海 前田 諄
発表課題：タケノグサの繁茂する再造林地における早期下刈りの有効性について

○一般財団法人日本森林林業振興会 会長賞（1点）

- ・受賞者：和歌山森林管理署 畑中 宣輝 久保田 啓太
発表課題：防護柵の撤去試験について

○森林・林業交流研究発表会 審査委員長賞（5点）

- ・受賞者：京都府立北桑田高等学校 谷脇 めぶき 内田 凜 岡本 美咲 長島 慧明 西口 恵唯
発表課題：未来へ受け継ぐ悠久の森
- ・受賞者：奈良県森林技術センター 青山 祐輔
発表課題：自動撮影カメラによるニホンジカの生息密度推定
- ・受賞者：滋賀森林管理署 宮崎 実周 竹原 昇平
発表課題：多雪区域における低密度植栽について
- ・受賞者：岡山森林管理署 根村 輝 伊藤 由希 笹原 真華
発表課題：GNSS 機器（モバイルマッパー）の精度検証と活用方法の考察
～林業現場でのより精度の高い活用を目指して～
- ・受賞者：鳥取県立智頭農林高等学校 森 悠輔 藤本 光潤
発表課題：緑をとりもどせ！その6
～持続可能な森林経営に向けた挑戦～



滋賀森林管理署
宮崎実周 竹原昇平

令和5年度国有林モニター会議を開催しました。

【企画調整課】

国有林モニター制度は、国有林の事業運営等について国民の皆さまからの理解を深めるとともに、ご意見やご要望をお聞きして国有林野行政に反映させることを目的としており、本年度は79名の方にモニターとして活動いただいています。



グラップルによる作業の様子（八ツ尾山国有林）



オランダ堰堤の見学風景（一丈野国有林）

11月28日（火）、国有林で実施している各取組について、実際に現地を視察し、体験してもらう「国有林モニター会議」を滋賀県内の国有林で実施し、16名のモニターに参加いただきました。



逆さ観音の見学の様子（一丈野国有林）

当日は、八ツ尾山^{やつおやま}国有林（多賀町）の森林整備箇所において、チェーンソーや高性能林業機械等を使用して間伐木の伐倒や巻立^{*}を行っている様子を、また、「日本美しの森 お薦め国有林」の一つである「近江湖南アルプス自然休養林」に指定された一丈野^{いちじょうや}国有林（大津市）において、保健休養を目的とした森林の様子を視察いただきました。

視察後に実施した意見交換会では、視察内容に関する質問から国の森林・林業政策に至るまで、様々なご意見やご感想等をいただきました。いただいたご意見は今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めてまいります。

今回の会議では、モニターの方々に国有林の取組を実際に肌で知っていただく機会を提供でき、国民の皆様さまに国有林を身近に感じていただけたと思います。

国有林モニター会議意見交換会の様子（滋賀森林管理署）

※玉切りした丸太を積み上げること

○出席者の声（意見交換会でお寄せいただいた感想等を一部紹介します）

- ・看板類や入林者用トイレを整備することで、さらなる魅力向上が見込めるのではないかと。
- ・広大な国有林を少ない職員で適切に維持するためには、事業の取捨選択が必要と思われる。
- ・国有林での取組を身近な人にも伝えたい。
- ・伐採の現場を御案内いただき、木材を安定的に供給する難しさを目の当たりにしたように思う。
- ・自然休養林を見て、地域振興の面で活用のヒントを得た。
- ・相続した山林の管理に苦慮しており、レクリエーション利用ができればと思う。
- ・花粉症対策でスギの伐採を進めるようだが、いつまでにどの位進めるのか知りたい。
- ・森林管理「署」との名称だが、警察署のような権限があるのが気になった。
- ・林業が衰退していると話に聞かすが、国として最も大きな問題は何か知りたい。

「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催しました。

【奈良森林管理事務所】

11月7日（火）、第12回^{かすがおくやま}「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催しました。

「古事の森」は、歴史的木造建築物の修復・再建に必要な大木を200～400年の超長期に亘り育成することを目的としたもので、「春日奥山古事の森」は、世界遺産である「春日山原始林」に隣接する^{じごくだに}地獄谷国有林（奈良市）において平成16年度に設定しました。

春日大社、興福寺、東大寺、奈良森林管理事務所等から構成している「春日奥山古事の森育成協議会」では、これまで様々な普及啓発イベントを実施しています。

今回は、「未来への森づくり 森林整備^{せむくつぶつ}と石窟仏見学ツアー」と題して、古事の森が所在する地獄谷国有林でイベントを実施し、一般応募者及び協議会関係者等15名が参加しました。

当日は、協議会会長の春日大社^{おぎ}禰宜 今井会長の挨拶に始まり、中井奈良森林管理事務所長から「春日奥山古事の森」を設定した目的や意義について説明を行いました。

その後、職員から枝打ち方法について注意点を交えた説明を受けた参加者は、作業するヒノキの枝を一本一本確認しながら、丁寧に枝打ちを行っていました。

また、その後、地獄谷国有林にある春日石窟仏及び地獄谷石窟仏を見学しました。

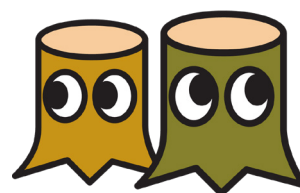
参加者からは、「森林整備体験では、将来の森づくりの一助を担う枝打ち体験ができたこと、また、奈良・

平安時代から伝わる石仏を間近に見学でき、とても有意義なイベントだった。お寺を見るたびに修復のための木材は足りるのか心配していたが、少しでも将来につないでいく助けができてありがたい」との声がありました。

なお、森林整備体験の様子は、NHKの取材を受け、当日夕方に放送され、古事の森の活動を広くPRすること

ができました。

奈良森林管理事務所では、今後とも、協議会と連携・協力しながら、古事の森育成や普及啓発活動を実施してまいります。



参加者が枝打ちをする様子



参加者の集合写真

「こどもちゃれんじ教室」を開催しました。

【三重森林管理署】

10月21日（土）、三重県伊賀市の焼尾国有林において「こどもちゃれんじ教室」を伊賀市教育委員会生涯学習課と開催しました。



この教室は、伊賀市教育委員会が年間を通じて開催しているイベントの一つで、「遊々の森※

「いきいき学びの森」の看板前で説明」の協定を締結している焼尾国有林内の「いきいき学びの森」をフィールドとして開催しています。

今年度は、伊賀市内の小学生7名、保護者4名が「いきいき学びの森」で樹木について学び、スウェーデン発祥の薪投げゲーム「クップ」を体験しました。



クップ体験の様子

クップ体験のあとに、参加者全員に冊子「うんこドリル 森とくらし※2」と松ぼっくりやどんでりで作ったキーホルダーを配付しました。

今回の体験を通して、森林をもっと好きになってもらえればと考えています。

※1：協定締結による国民参加の森林づくりの制度で、森林教室や自然観察、体験林業等、多様な体験を通じて行う森林環境教育のためのフィールドを提供します。

※2：林野庁×うんこドリル「うんこドリル 森とくらし」（林野庁 HP）
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/unkodrill/moritokurashi.html>

「気比の松原」で中学生が「松葉かき」を実施しました。

【福井森林管理署】

10月25日（水）、「気比の松原」に隣接する敦賀市立松陵中学校の2年生147名が森林体験活動として「松葉かき※」を、気比の松原（松原国有林）内で行いました。



職員からの作業前説明

まず始めに、福井森林管理署の職員による「松葉かき」作業の実演を交えた説明を受けた後、生徒たちは作業に必要な熊手・手袋（てみ：熊手で集めた松葉を入れる道具）を受け取り、クラス毎に作業を行いました。

作業では役割を分担し、それぞれが松葉をかき集め、ゴミ袋に一杯になった松葉を運搬用のコンテナ内に持ち込み、「松葉の山」を築いていきました。



作業分担しながらの「松葉かき」

活動中の生徒からは、「気比の松原の自然を自分たちの手で守っていきたい」「身近にある松原を再認識した」「松葉かきは、やりがいがあって楽しい」などの声が聞かれました。

生徒達が収集した700kgあまりの松葉は、敦賀グリーンパワー株式会社及び有限会社 ニューチップ運送のご協力のもと「バイオマス発電」の燃料として地域電力の一部に活用されます。

福井森林管理署では、今後とも森林体験活動等の地域の活動に協力してまいります。

※松葉かき：松林は、痩せた土地を好み、落ちた松葉を取り除かないと、土壌が肥沃になり、広葉樹が主体の雑木林になっていきます。

ノウサギ対策と低コスト省力造林取組 (冬下刈)の現地検討会を開催しました。

【山口森林管理事務所】

10月31日(火)、滑山国有林内の低コスト造林(冬下刈)実施箇所において、ノウサギ、低コスト省力造林の取組(冬下刈)についての現地検討会を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、中国四国農政局、森林整備センター山口水源林整備事務所、山口市、住友林業フォレストサービス株式会社及び山口森林管理事務所職員の総勢18名が参加しました。

現地検討会は、長岡森林管理事務所長の挨拶の後、近年のノウサギの被害状況、滑山国有林で取り組んでいるノウサギ被害の防除対策、和歌山森林管理署が考案したN型誘引捕獲わなについて、職員が説明を行いました。



N型誘引捕獲わなの説明の様子

その後、低コスト造林(冬下刈)実施箇所を視察し、下刈りの省力化に向けての課題等について、意見交換を行いました。

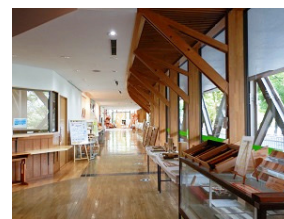
参加者からは冬下刈について、「夏の猛暑の中での作業に比べ冬に行くことで体の負担が軽減されるなどメリットがある」等の感想が聞かれました。

検討会終了後に行ったアンケートでは、今後の現地検討会のテーマとして「作業道の作設やスマート林業」「ドローンを活用した省力化」などの要望が寄せられました。

山口森林管理事務所では、今後も貴重な意見交換の場として現地検討会の開催に取り組んでまいります。

お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)



【技術普及課】

○12月11日(月)～1月9日(火)の展示は、大阪府千早赤阪村、河内長野市、河南町です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【林野庁】

森林を活かすしくみ 森林環境税・森林環境譲与税

日本の森林は、国土の約7割。環境保全や防災、水の浄化など、森林は様々な場面で私たちの暮らしを支えています。

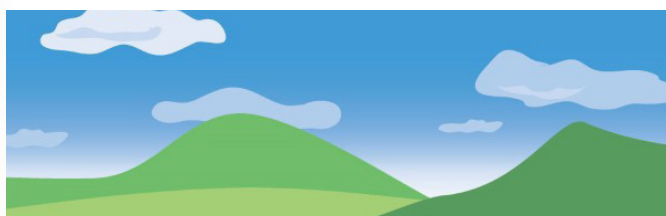
この豊かな森林が持つ多くの機能を活かすには、森林をしっかりと整備していくことが必要です。

令和元年度に、市町村(特別区を含む。以下同じ。)による森林整備等の新たな財源として、「森林環境譲与税」の譲与がスタートしました。

令和6年度からは森林環境譲与税の財源となる「森林環境税」の課税が始まります。

各市町村では、皆様からいただいた貴重な財源を活用して、森林の整備を進めてまいります。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/231018.html>



花草木

【イロハモミジ】

イロハモミジ(学名:Acer palmatum)は、ムクロジ科カエデ属の落葉高木です。別名で、イロハカエデ、タカオカエデなどとも呼ばれるそうですが、単にモミジと呼ばれることが多いようです。和名のイロハモミジは、葉が手のひらのように5-7つ裂片があり、この裂片を「いろはにほへと」と数えたことに由来します。

日本では最もよく見られるカエデ属の種で、紅葉の代表種でもあります。

また、本種より作られた園芸種も多くあります。

葉はオオモミジやヤマモミジなどに似ていますが、イロハモミジの葉は一回り小さく、鋸葉が粗く不揃いなところで区別されます。

紅葉は、10月から12月頃です。日当たりの良かった葉は赤く染まり、日当たりの悪かった葉は黄色くなることが多いです。

イロハモミジの花言葉は、「遠慮」「大切な思い出」です。



大阪市内の公園で撮影

我が署のスタッフ 三重森林管理署

那須 満まる (なす みまる) (R5年度採用)

長谷川 恭之 (はせがわ やすゆき) (R5年度採用)



【現在取り組んでいる仕事は？】

【(那須) 業務グループで主に森林育成を担当しています。自身の担当業務だけでなく、それぞれの先輩方の担当業務をお手伝いする機会が多く、いろいろな仕事を経験できるため、とても楽しいです。学んだことを業務に活かせるように頑張ります。

【(長谷川) 総務グループで経理・管理業務の一部を担当しています。現在は主に物品の管理・調達、旅費精算、入林届の手続を行っています。入庁から八か月を迎え、少し落ち着きました。まだまだ勉強の日々です。特に経理事務は、必要な事務処理が複雑であることも多く、周りの方々に助けられてばかりにはなりませんが、早く一人前になれるよう精進します。

【職場の雰囲気は？】

【(那須) 穏やかな方が多く、わからないことがあればすぐに質問できる環境なのでとても働きやすいです。

【(長谷川) 優しい方が多く、上司の方も気にかけてくださるので、困ったことや分からないことも聞きやすい良い雰囲気だと思います。

【林野庁の魅力は？】

【(那須) 現場仕事が多いことだと思います。現場の日々運動不足を解消できますし、お昼休みには森林内でご飯を食べたり生物観察したりできることがとても楽しいです。

【(長谷川) 豊かな自然の中で仕事に携われるという点です。里山で見られる植生とは違い、奥山特有のものや地域によっても様々な木々・草花を確認できるところが魅力だと思います。現場に出た際には、一つ以上の木の名前を覚えるようにしています。

森林事務所紹介

宮津森林事務所（京都大阪森林管理事務所）

首席森林官 坂口 正司（さかぐち ただし）

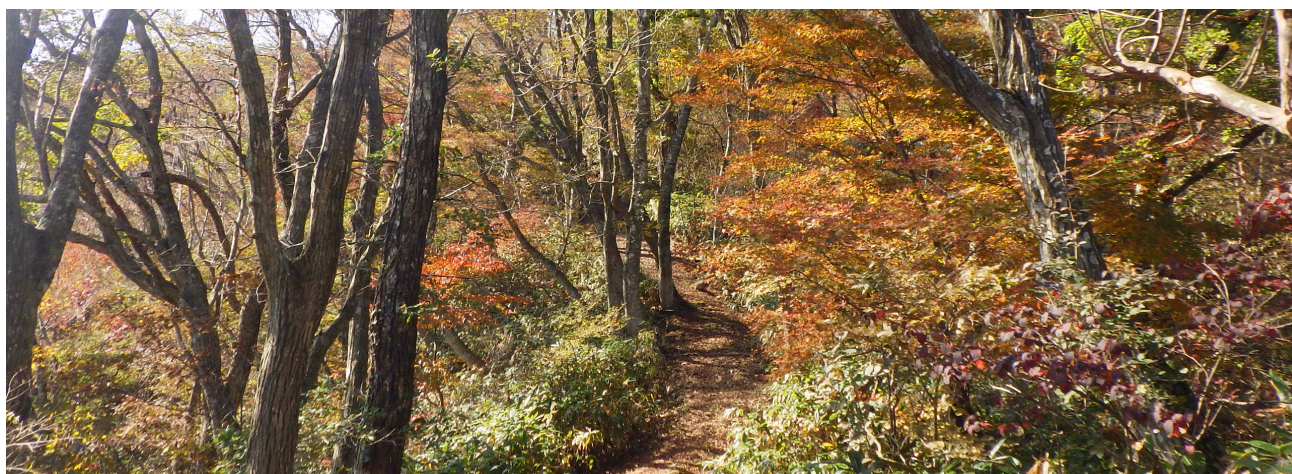
宮津森林事務所は日本三景のひとつ天橋立がある京都府宮津市に所在しています。管轄区域は宮津市、舞鶴市、福知山市、京丹後市、伊根町、与謝野町となっており、国有林 11 団地約 2,200h a と官行造林地 21 団地約 1,300hha を管理しています。国有林内には、明智光秀の三女で細川忠興の正室であった細川ガラシャが、幽閉されている間に歩いたとされる歩道があります。

当事務所では、林野巡視、森林整備事業の監督などの業務を行っています。大谷^{おおたに}国有林ではシカの食害が深刻化してきており、対策をしないまま植栽すると大きな被害を被る状況になってきています。防鹿柵では降雪により破損してしまうことが想定されるため、単木保護管を設置して植栽木を守っています。また保護管にたまった雪が春の苗木の成長に影響をもたらさないかの検証が重要になってきます。



大谷国有林（単木保護管設置状況）

国有林の一部は「丹後^{たんご}天橋立大江^{あまのはしだて}山^{おおえやま}国定公園」に指定されているなど、景観上重要な場所が多くあります。浅谷^{あさだに}、成谷^{なるたに} 国有林は丹後^{たんご}縦貫^{じゅうかん}林道^{りんどう}端^{はた}であり、須川^{すかわ}国有林はスイス村の風景林になっています。また駒倉^{こまくら}国有林の丹後^{たんご}縦貫^{じゅうかん}林道^{りんどう}付近及び浅谷^{あさだに}国有林の大半が「駒倉^{こまくら}ブナ・ミズナラ希少^{せうせう}個体群^{こたいぐん}保護^{ほご}林」「浅谷^{あさだに}ブナ・ミズナラ希少^{せうせう}個体群^{こたいぐん}保護^{ほご}林」に指定され、周囲の民有地と連携してブナ・ミズナラの保護に努めています。



駒倉国有林（駒倉ブナ・ミズナラ希少個体群保護林）

シリーズ『国有林 最前線！』

『大山地域でのナラ枯れ対策について』

鳥取森林管理署

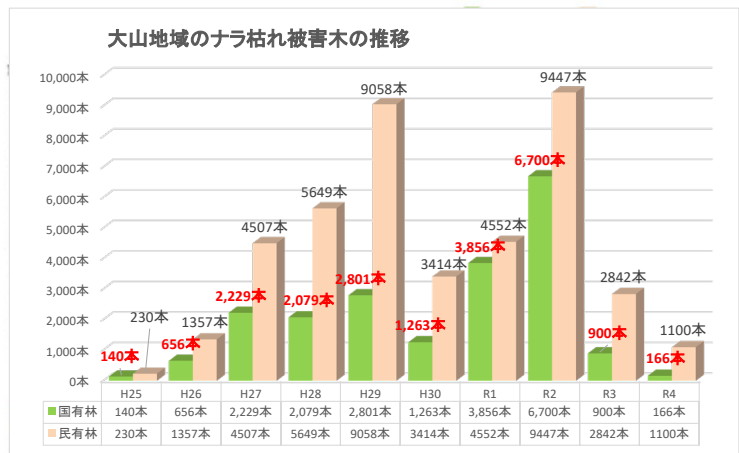
◆ナラ枯れとは

「ナラ枯れ」とは、ナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす病原菌「ナラ菌」と、この病原菌を媒介するカシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」と記載）による樹木の伝染病です。カシナガの被害を受けたナラ類は紅葉前の7～8月に葉が赤く変色を始めることが特徴です。

◆ナラ枯れ被害の推移について

大山地域の被害量は、平成29年まで右肩上がりであり、その後減少したことで沈静化に向かうかと思われましたが、令和元年から令和2年にかけて再び増加に転じました。

令和3年、令和4年にかけて被害量は大幅に減少しましたが、今後の被害状況については引き続き注意が必要です。



出典：鳥取森林管理署業務資料

◆大山地域でのナラ枯れ被害対策について

【駆除事業】

カシナガが羽化・脱出する5月末までに、被害木に立木ビニールシート被覆を行い、カシナガを閉じ込め、駆除します。また、被害木の「伐倒・搬出」による駆除も実施しています。

また、大山地域は観光客が多く、主要な観光道路沿線や登山道などの入山者の多い区域については、危険木の排除、安全を確保することを目的に伐倒を伴う作業種で駆除を行っています。



作業前



作業中（伐倒・搬出）



作業後

【予防事業】

大山環状道路など主要な観光道路沿線にある優先的に保護が必要なナラ健全木を対象に立木ビニールシート被覆を行うことで被害の蔓延防止及び未然防止を図っています。



立木ビニールシート被覆



主要観光道路沿線のナラ保護状況